

在京宮崎県人会会報

ふかぜ

第 16 号
平成 13 年 1 月 31 日

在京宮崎県人会

TEL (03)3222-1448



在京県人会の活性化と ふるさとの発展を願う

在京宮崎県人会々長 日 高 啓

在京宮崎県人会の皆様、あけましておめでとございます。

新しい世紀を迎え心からご多幸をお祈りします。

新年早々大変残念なご報告ですが、永年県人会々長をおつとめ戴いた前会長の財津吉史様が昨年暮れにお亡くなりになりました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、昨年十月の総会は会員の皆様、並びに知事さんはじめご来賓を迎え総勢二四〇名の出席を得て盛大に行なわれました。ご出席の皆様をはじめ、総会準備に努力された役員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

一方ふるさと宮崎の近況につきましてはお承知の如く松形知事さんはじめ、県市の行政、民間の皆様のご努力により、めざましい成果をあげておられます。特に昨年はサミット外相会合の招致があり

大変なご苦労があったことと存じます。お陰でふるさと宮崎の名前は国内、海外に向け大いに宣伝されました。宮崎県人として改めて感謝の意を表する次第であります。

ふるさとを離れて生活している私たちにとつて、みやざきはいつまでも懐かしい故郷です。そのふるさとに恩返ししたい、ふるさとの発展のために微力であつても力をつくしたいと思うのはみんなの気持ちだと思います。そのためには日常の小さなことの積み重ねが確実なパワーになると信じてます。ご一緒に努力しましょう。

★みなさん、新宿にある宮崎県物産観光センターの「コンネ」に行った事がありますか？ お陰で成績は順調に伸びているそうです。

★「宮崎県在京経営者会議」が設立され、

宮崎の経営者との交流を含め活発に活動しているのをご存じですか？

★「天皇家のふるさと日向をゆく」新潮社（梅原猛著）をNHKテレビドラマに取り上げて貰う署名運動を行っていきます。

★近畿県人会の山下会長から、「東京と近畿で定期的に交流会ができないか」との有難い提案を戴きました。一昨年、近畿・北九州・東京合同で行った「グリーン博・ふるさと訪問ツアー」は大成功でした。

★在京の各市町村会、各同窓会は活発に活動されていると聞きます。在京県人会との交流はできないものでしょうか。在京県人会を活性化するためにはどうしたらよいのか。

ふるさとの産業活性化に、観光と物産の振興のためには何をしたらよいのか。みんなでご考え、実行しましょう。

輝かしい新世紀の 幕開けを迎えて

宮崎県知事 松 形 祐 堯

在京宮崎県人会の皆様には、希望に満ちた明るい二十一世紀の新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、皆様方におかれましては、各界において活躍されますとともに、郷土宮崎とを結ぶ架け橋として、県勢発展のため何かとお力添えを賜り、心からお礼を申し上げます。

さて、今年は、西暦二〇〇一年という輝かしい新世紀の幕開けの年であります。二十一世紀は、大交流・大競争の時代でありますとともに、地球温暖化などのグローバルな課題が深刻化することが予想され、地方と言えども、世界を視野に入れた取組を進めていくことが求められております。

このような中、本県は、昨年成功裡に終了しました九州・沖縄サミット宮崎外相会合などの国際会議開催の成果を最大

限に生かしながら、総合交通網の整備をはじめ、諸産業の振興、医療・福祉、教育・文化の充実など、本県が二十一世紀に飛躍するための取組を進めてまいりたいと考えております。

まず、東九州自動車道は、今年三月には「西都―宮崎西間」が開通予定となりますとともに、「都農―西都間」は昨年同時期に施行命令が出された全国の区間の中でも先頭を切って着工するなど、全国トップクラスの速さで整備が進んでおります。今後は、県内一九〇km全区間の早期開通に向けて一層努力してまいります。

また、「国際定期便開設」に向けた国際チャーター便の運航拡大などにより、国内外との円滑な移動を可能とする広域交通ネットワークの形成を進めてまいります。

次に、国際競争の時代にある産業につきましましては、本県農林水産業が我が国の食料・木材供給基地としての役割を果たせるよう一層振興しますとともに、海外も視野に入れた企業誘致や工業技術センターを核とした工業の振興、まちづくりと一体となった商業の振興などに努めて

まいります。

また、観光・リゾートにつきましましては、サミット開催の成果を踏まえて、世界的な視野に立った「国際会議都市、国際観光都市」の実現を目指します。

さらに、IT（情報通信技術）革命への対応として、平成十三年度、高速・大容量の光ファイバー網（七〇〇km）を県内全域に整備することとしております。

このほか、今年九月には三十五歳以上の中・高齢者を対象とした全国で初めての「日本スポーツマスターズ二〇〇一宮崎大会」が開催されますので、本県の魅力を全国に発信してまいりたいと考えております。

今後とも、宮崎県の独自性を発揮しながら、人と地域が輝く「住みよいふるさと宮崎」の実現に全力で取り組んでまいりますので、皆様方の変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり、在京宮崎県人会のますますの御発展と皆様の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。

平成十三年正月

ミレニアム総会盛大に開催!!

ツイッターゲスト演奏に感激!!

本年度総会は、十月十三日(金)「アルカディア市ヶ谷」に於いて例年通り開催されました。

中島龍男(都城市出身)実行委員長の開会の言葉に始まり、日高啓会長(宮崎市出身)の挨拶に引き続き、松形祐堯知事の祝辞があり議事に入りました。

議長に中島実行委員長を指名し、松本國利(日向市出身)幹事長が議案の説明を行いました。

議案は第一号議案「平成十一年度事業報告及び決算について」、第二号議案「平成十二年度事業計画並びに予算について」と議事が進行され満場一致で可決されました。

次に、ゲストコーナーとして、今回は都農町出身で高鍋高校OBの世界的なツイッター演奏家・河野保人氏を特別ゲストとしてお招きし、各演奏の数々を楽しみました。

曲目は「第三の男」「ウイーンのうたから」「遠い国から来た人」テレビドラマ「大岡越前の守のテーマ曲」でした。

演奏終了後、国会議員や来賓の紹介があり、斉藤実美県議会議長の音頭で乾杯が行われ懇親会に入りました。

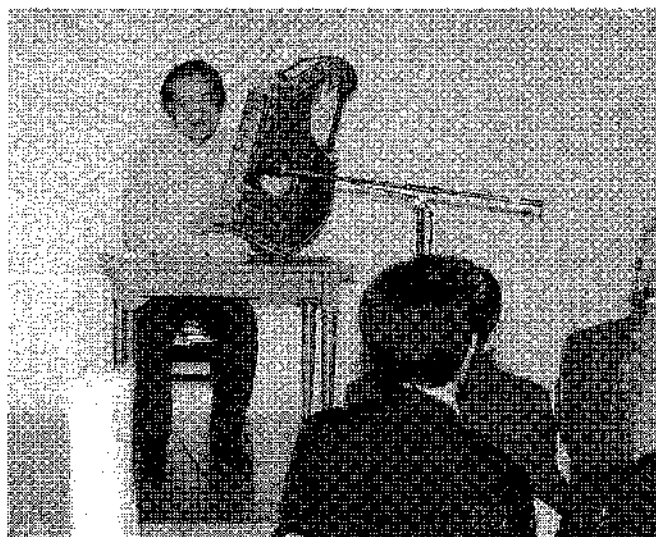
又、プレゼントとして知事の「宮崎牛」県会議長の「花器」県市長会の「百年の

孤独」県町村長会の「宮崎コシヒカリ」高島屋よりの寄贈品、シーガイアグループ「ホテルオーシャン45」「宮崎観光ホテル」「青島パームビーチホテル」「ホテルプラザ宮崎」のペア宿泊券、市町村長よりの特産品の公開抽選が行われました。

最後に、都農町長・河野通継氏の万歳三唱にて閉会され、配布された「在京宮崎県人会名簿」新年度版や、知事や各市町村から戴いたお土産を手に満足して帰途につきました。(文責 長倉)



日高会長挨拶



ツイッター演奏者 河野保人氏

早春美しきツィターの響き

都農町出身 河野保人

平成十三年の新春にあたり、皆様の弥栄とご健勝を心からお祈り申し上げます。はからずも、昨秋の十月、在京宮崎県人会総会に出席する機会を得、ツィター演奏をし、県関係者の各位にご披露しました事は大きなよろこびであり、故郷を出てから五十年後のことで感慨もひとしおございました。

思うに、都農町に生まれ、高鍋高校卒業後志を立て上京。戦後の東京での音楽修行は、困難でも、夢は世界への向学心に燃え、その頃は今のような渡航が自由化されていない時代、なんとしても自分の実力を証明したく、クラシック音楽の本場ヨーロッパへ、妻と一歳の息子を連れて留学をしたのでした。

当時の西ドイツ、ハイデルベルクを本拠地とし、物質的には貧しくとも、アメリカ、ドイツ、イタリア、と欧州の音楽仲間との固い友情と信頼に結ばれ、その



ツィター演奏者 河野氏

仲間たちと、アンサンブル・カンソーを率いてドイツ各地で演奏活動。

この時期に培った古典音楽から近・現代までの、広範な領域を手掛けたことが、現在の演奏活動の原動力となっています。

一九八八年「ツィター奏者・河野保人後援会」が発足。会長・三笠宮寛仁親王殿下の仁慈あふれる御力にて、全国二十六支部が設立。宮崎支部も発会（支部長・岩切達郎氏、理事・渡辺綱纒氏）大坪記念会館にて「河野保人・ツィタールサイタル」が盛大に開催され、ツィッター音楽の神髄を伝える事が出来たと思っております。

一九九七年には、紫陽花ホール（宮交シティ）で「早春美しきツィターの響き」が開催され、後援会会長・宮殿下御臨席。「宮崎県が生んだ郷土の宝は、今や日本の宝のみならず、世界の宝になりつつある」のおことばを賜りました。

二〇〇一年の今年も新装となったオルブライトホールにて記念コンサートの開催予定になっております。

このような時に、典雅な響き、美しく豊かなハーモニを奏でるツィターを、お聞き頂きたく、皆様のご支援とご協力を希望しています。（ツィター奏者）

在京宮崎県人会総会に

出席して

北郷村出身 泉 田 弘

去る十月十三日、在京宮崎県人会総会に出席して久しぶりに満足している自分を発見した。考えてみるとこの種の会合は事業報告、会計報告、事業計画案などどこでも型どおりに最後は大方、異議無しで終わるのである。

しかし、今度の総会の新鮮さは、都農町出身の河野保人氏のZitherの演奏に尽きたと思う。懐かしい、第三の男のバックミュージックを聞きながらまざまざとウイーン郊外の遊園地での観覧車のシーンや息詰まる下水道での逃走シーンなどが甦り洋画大好きな青春にタイムカプセルで楽しい旅をした思いでした。

河野保人氏はZither奏者としても、またこの特殊楽器の研究においても日本での第一人者とのこと、今まで不案内の自分を恥じる思いでした。

県人会が今後もこの河野氏のすばらしいZither演奏をより多くの人たちに楽しむ機会を作り氏の後援会として機能したら如何なものか。

宮崎出身の優れた芸術家を県人会として応援するのもこの会の事業として相応しいのではなどと愚考した次第です。今後楽しい県人会でありたいものです。

えびの市出身 田辺マツコ

「ツイター」の調べが、軽快なリズムと荘厳な世界を奏でる中、故郷宮崎が鮮やかに蘇って参りました。東京での暮らしが、故郷での年数をはるかに越え、親兄弟不在の田舎は、忘却の彼方にありました。

今回、県人会の出席の機会を得、日高会長様はじめ世界的ツイター奏者の河野保人様やご立派な諸先輩の方々にお目にかかれ「宮崎県」を再認識し、宮崎県出身である事に喜びと誇りを感じつつ帰途につきました。

私はえびの市出身ですが、県人会名簿を拝見し、県内未知の所の多い事を実感

しました。是非、機会を見つけ県内各地を訪ねてみたいと思いました。

昨年、県人会役員として入会させて頂きましたが、女性の方が少ないのに驚きました。日高会長の「これからは、女性が無難ならなければいけないんだよ」のお言葉が印象深く、女性の役員が増えることを願っております。

総会出席は、故郷「宮崎」を思い起こす素晴らしい転機となりました。

「驛鳥林旧林を恋い、池魚故淵を思ふ」今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

延岡市出身 山本 浩幸

きっかけは、朝刊から「宮崎県人会」の字が飛び込んできたことでした。正直言って、胸が高まりました。

ふるさとへの愛着が強い性質からか、一気に興味関心を持つてしまい、抑えきれずにといつた感で、参加させていただきしました。

当日までは、若輩の身ゆえに、諸先輩方の輪に入ることに、とまどいを感じていたのですが、会場内にて飛び交うお国

なまりを聞いた途端、緊張の糸も解きほぐされました。

テーブルを囲む先輩方は、にこやかで、お言葉は温かみに溢れておりました。共に酌み交わした焼酎の旨かったこと。心地よく酔ってしまいました。

生まれ育った郷土をともし、交流する場として、宮崎県人会の果たす役割は、これからも変わらぬものがあると考えます。

同郷の力強い絆と、新たな出会いを与えてくれた県人会に感謝しております。次回も、必ず参加します。

知らなかった

青年部の存在

三股町出身 木佐貫康之

私が宮崎県人会青年部を知ったのは、あの再会からでした。

今から三年前の正月過ぎ、都城で中学時代の同窓会がありました。私も年末年

始は帰省していたので同窓会に出席しました。当時の友達約二十人が出席し同窓会はとても楽しかったのですが、当時、仲の良かった友達の一人がその会に出ていなかったのも、その会の翌日その友達の実家に電話しました。電話にはお父さんが出て、「つよし、は今東京で働いていて今回三股には帰ってこんがったよ」とおしゃいました。「えっ、東京で働いているのー？ しかも住んでいるところが近いじゃないか。（車で十分ぐらいの距離でした。）もっと早く確認しておけば良かった。」とその時正直思いました。（その後、他の友達も結構東京に住んでいる事が分かった。）その友達、つよし、が今の青年会の会長である米沢剛君です。彼とは小学校、中学校時代の同級生で特に中学校三年の時は同じクラスメートでした。早速東京の彼の自宅に電話し、成人式以来約八年ぶりに再会しました。

住んでいるところも近かった為、それ以来度々飲みに行ったりしていました。

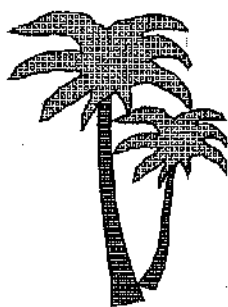
そうやって頻繁に会うようになってから宮崎県人会の存在を知り、その後各種イベントに参加するようになり今に至っ

ています。

ちなみに、私は学生時代「宮崎県人東京学生寮」に約二年間いましたので宮崎県人会の存在は知っておりました。

宮崎県人会に対する要望として、より交流できる場面の設定して欲しいと思います。

東京在住の宮崎出身者は、自分も含めて他の県出身者と比べ、結束力が強いと思います。より一般的に宮崎県人会の存在を、活動内容を発信できるコンテンツを求めます。（例えばインターネットにホームページを開設する。）



私が選んだ道

都農町出身 長友 洋司

私は今年の春三十歳を迎える。個人差はあれども、スポーツの世界ではピークを過ぎた年齢といえるだろう。なぜ今の私がありここまでラクビーを続けてこれたのか、最近よく考えさせられる。そんな時浮かんでくるのは、故郷宮崎で過ごした日々だ。

児湯郡の都農町に生まれ、中学卒業までをそこで過ごした。決して優等生とはいえなかった。腕白でよく喧嘩をしては先生に叱られた。相手はいつも上級生、結果は言うまでもなく惨敗。悔し涙が止まらなかったことをよく覚えている。小さい時は、本当によく泣いていた。喧嘩に負けて泣き、中学まで続けていたサッカーや剣道の試合に負けては泣き、そのたび親父に叱られた。「負けて泣くな、悔しかったら勝て」自他共に認める私の負けず嫌いの原点はここにある。

ラクビーをやるため、親元を離れ都城高校へ進んだ。「体の小さいお前にラク



ビーは無理だ」と、サッカー推薦がある学校をすすめる恩師を振り切った。「必ず一流の選手になってやる」と大きな選手にタックルされ脳しんとうを起こしても止めなかった。そんな負けず嫌いの私だったが、一度だけ高校の寮から逃げ出したことがある。きつい練習には耐えられなかったが、上下関係の厳しさには慣れることができなかった。ぎりぎりの電車賃で二時間かけて都農の家に戻ると母が迎え

てくれた。夜になって帰宅した父は顔を見るなり「帰れ」。その日のうちに寮に連れ戻されてしまった。「自分が好きで選んだ道だから途中で逃げ出すな」その時の父の言葉を胸に今もラクビーを続けている。

高校二年で花園へ行き、三年の時には高校日本代表にも選ばれた。明治大学では二年から紫紺のジャージを着ることができた。国立競技場で六万人の観衆の中、試合をしたこともある。現在、所属しているサントリーでは、入社三年目に主将を任され、念願の日本一を達成することができた。そして今年も再び日本一を目指し練習に励んでいる。

ラクビーをしている子供達から「どうやったら上手になれますか。」とよく質問される。彼らは技術を教えてもらうことを期待するのだが、私の答えは一言「好きになること」だ。そんな時、母に連れられ都農から都城へ戻る車の助手席で、父の言葉を反芻していた高校生の自分が頭に浮かんでくる。

(サントリー(株)ラグビー部レギュラー)



故郷に帰って東京を想う

宮崎市出身 黒木 康年

県人会の皆様、御無沙汰しております。そして、こうして筆を執らせていただくことをたいへん光榮に思っております。

東京での生活は二年間と短い期間でしたが、千年紀を東京で迎え、新世紀を宮崎で迎えることになるとは。まさに大交流の時代を地で行くような気がしております。特に私たち夫婦にとって、学生時代を過ごした街であり、四谷近辺でよく待ち合わせをするなど、大いに青春を語り合い、そして結婚し、また思いもかけない転勤でこの地で家族と一緒に銀婚式を迎えることになりました。

振り返ってみますと、昨年は「九州・沖縄サミット外相会合」が成功裡に終了するなど、本県にとって歴史に残る年となりましたが、私が赴任した当時の東京事務所は、本県を初め、大阪や福岡など全国八府県市が激烈な誘致活動を繰り広

げており、知事を先頭に全力を挙げて取り組んでいる真っ只中でした。決定までハラハラどきどきの連続でしたが、知事の熱き思いを肌で感じ、そのパワーにただただ驚き、緊張感の中にも、宮崎のために頑張らなければと充実した日々を送らせていただきました。

また、大きな思い出が県人会の方々と交流です。特に、県人会の方々と御相談しながら、関東地区在住の三万人とも四万人ともいわれる県出身者の名簿作成、旅行業者や地元との度重なる協議など、心地良い苦労もありましたが、平成十一年四月に県人会初の「宮崎ふるさと訪問ツアー」を近畿・福岡の各県人会と合同で実施できたことが、最大の思い出となっております。

家内は、今でもうわ言のように「東京はよかった、東京はよかった」と東京に思いを馳せております。かくいう私も、

皆様との出会いを楽しみにしておりますので、帰県の際にはぜひ声を掛けていただければ幸いです。

終わりになりますが、二十一世紀における在京宮崎県人会のますますの御発展と会員の皆様様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、感謝の言葉といたします。
(宮崎県庁・秘書課長)

（3月までの）新着 みやまきイベント

- 塩干物フェア（土々呂・高橋水産）2月2日～2月4日
- 宮崎市農産物フェア（宮崎市）2月9日～2月11日
- お菓子フェア（宮崎市・新生堂）2月21日～2月22日
- 都城よかもんフェア（都城園城地場産業振興センター）2月23日～2月25日
- 日向夏・きんかんフェア（経済連）3月2日～3月4日
- 塩干物フェア（土々呂・高橋水産）3月9日～3月11日
- 日向夏・きんかんフェア（経済連）3月16日～3月18日
- KONNE 3周年記念フェア（KONNE）3月19日～3月31日

能 東京公演 民族文化財)

椎葉の神楽と仕事歌

・ 嶽之枝尾神楽保存会 ・



注連鬼引神



注連鬼引神

昨年の二月十九日と二十日の両日、千代田区の紀尾井ホールで宮崎県椎葉村の伝統芸能が上演されました。

出演したのは、椎葉村の嶽之枝尾神楽保存会のメンバー(中瀬守代表)で、内容は、「第一部」が焼畑に纏わる歌を中心に、①木降ろし歌②春節③稗つき節等が披露され、「第二部」は嶽之枝神楽から①神迎えの舞②注連の唱教③注連營④注連引鬼⑤神送りの舞いがそれぞれ上演されました。

椎葉村の人々は、古来より焼畑農業や狩猟生活を通じて、いつも自然に感謝し自然と共に生きてきました。そして、そ

れらが民謡や神楽等の伝統芸能として体现され、今日まで地元の人々によって大事に伝承されています。

椎葉神楽は、毎年十一月中旬から十二月下旬にかけて村内の二十六ヶ所の集落で毎夜舞われています。地元では、一年を締めくくる祭りとして、別名「冬祭り」或いは、「年祭り」とも呼ばれています。

ところで、今回の東京公演は二日間とも満員で立ち見客が出る程の盛り上がりを見せ、観客は霊験あらたかな舞台の雰囲気についてまでも酔いしれていました。

郷土伝統芸 く重要無形

高千穂の夜神楽

・浅ヶ部神楽保存会・



躍動する神々

神々の降臨

昨年の三月十一日と十二日の両日、東京国立劇で高千穂町三田井の浅ヶ部神楽保存会による「高千穂の夜神楽」が上演されました。

初日は、神楽の降臨と題して、「舞入れ」「彦舞」等の七番が厳かに舞われました。

また二日目は、躍動する神々と題して「山森」「住吉」「芝引」等の八番が演じられました。

高千穂町は、天孫降臨の地と言われ、高千穂の夜神楽は、天岩戸の前で天鈿女命（あめのうずめのみこと）が面白おかし

く舞ったのが起源と伝えられています。

昭和初期は五十を越える集落で舞われていましたが、現在は三田井地区外七つの地区でしか舞われていません。神楽宿では、午後から夜明けまで三十三番が十数人のホシヤドン（舞人）によって入れ替わり立ち替わり舞い続けられます。

今回の上演は、二日間とも満員御礼の盛況でした。また、入場券については、国立芸術劇場の特別な計らいにより維持会員の皆様には安価で御提供することができました。

『一金会』

〔宮崎県東京〕にて開催

平成十一年（県人会総会以降）

■十一月

演題 『新指針（ガイドライン）と今後の課題』

講師 元海上自衛隊横須賀地方總監

原田政昭 氏（新富町）

平成十二年

■二月十六日

新年会は会員相互の賀詞交換会で講演無し。アトラクションとして、詠一吟八紘流宗家・金屋八紘（延岡市）が『宝船』を吟詠。

■七月七日

演題 『これからの年金について』

講師 厚生省年金局長

矢野朝水 氏（西都市）

■十一月二十八日

演題 『中国教育革命が描く世界戦略』

講師 筑波大学教授

遠藤 蒼 氏（宮崎市）

平成十三年

■二月中旬 新年会を予定。

計報



前 在京宮崎県人会会長
さいつ よしふみ
財津 吉 史 様
(九十四歳)

平成十二年十一月二十七日（月）午後七時五十分 天寿を全うしご逝去されました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申します。

同氏は高鍋町出身で、昭和四年三月東京帝国大学法学部を卒業後内務省に入省、各課長を歴任、昭和二十三年建設省誕生と共に建設畑を一環して歩かれ、退官後は十財団に及ぶ理事長に就任、その功績は、はかり知れぬものがあります。

尚、昭和五十五年から平成五年に至る間、在京宮崎県人会第六代会長として貢献されました。その功績を讃え、心からご冥福をお祈り申し上げます。

在京宮崎県人会 事務局・東京都千代田区九段南四ノ八ノ二 宮崎県東京ビル